



児童福祉施設に入所する 子どもたちに夢を届ける

長野県 株式会社 サンエイ

「子どもの笑顔があふれる
『未来へ繋がる思いを形に
夢チャリティー』」事業



株式会社サンエイ
代表取締役社長
安田 英哲さん

地元密着を掲げるホールの 「夢チャリティー」

株式会社サンエイは、2002年に長野市柳原に1号店となるホールをオープンさせたのを皮切りに、現在、長野県下に7店のパチンコ店「ニュートーキョー」を展開している。「Life is fun!」をキャッチフレーズに、“地元に着した地域一番店”を目指し、日々、努力を重ねているが、代表取締役社長の安田英哲さんは、「私たちだけが一番ではない。お客様にも、地域の方々にも喜んでいただけることが大前提。商売は当事者だけでなく、世間のためにもなるものでなければならない」という趣旨の挨拶をホームページに掲げている。

地域のため、世間のためという考えを具現化するのが、サンエイが取り組んでいる社会貢献活動である。サンエイでは地域清掃活動の実施や災害時の募金活動を積極的に行っているほか、ペットボトルのキャップや空き缶のプルトップを分別回収して国内外の支援活動に役立てているが、なかでも長野県内の児童福祉施設に必要とされる物品を贈る「夢チャリティー」と命名された活動は、県内の民放局、地方紙などでも毎年のように取り上げられ、広く県民に知られている。

「夢チャリティー」を始めるきっかけとなったのは、安田社長が知人から、保護者不在、虐待、育児放棄などの理由で家庭を離れて児童養護施設などで暮らさざるをえない子どもたちがいるという話を聞いたことだった。そこで、そう



寄贈したチャイルドシートやベビーカー



第50回長野県児童福祉施設大会にて長野県知事賞を受賞



「夢チャリティー」の活動を報告するポスター



地域清掃など社会貢献活動を積極的に実施

した子どもたちを援助したいという思いから、「変わらぬ笑顔を守りたい」をコンセプトに、2007年から毎年、県内にある21カ所の児童福祉施設に物品を贈る活動をスタートさせた。

遊技客の募玉を 子どもたちの笑顔につなげる

「夢チャリティー」は毎年、4月1日から翌年2月末日まで、ニュートーキョーグループの店頭で募玉箱を設置し、ポスターなどで来店客に募玉を呼び掛ける。遊技客から集まった募玉とさらに、ニュートーキョーグループからの寄付金を上乗せし、そのお金でさまざまな物品を購入し、施設へ寄贈する仕組みである。寄贈する物品は、そのつど、協力関係にある長野県児童福祉施設連盟を通じて施設側の希望を聞き、それに適ったものを選択し、毎年春に児童福祉施設で寄贈式を開催して贈っている。

これまでの寄贈品総額（金額換算）は累計で約1,000万円を超えているが、去年はチャイルドシートとベビーカー計26台、寝具一式154セット、総額約360万円相当の品物を寄贈した。その前年は通学用自転車、幼児向け三輪車、トレーニングバイク、さらに、ノートパソコン、デジタルカメラなどが贈られた。

この「夢チャリティー」事業は、東日本大震災、長野県北部地震時には、その緊急性から一時的に震災チャリティーに変更したものの、関係機関や募玉を提供する遊技客からの要望や関心が高く、すぐにもとに戻し、それ以後も年々、遊技客からの寄付が増加傾向にあるという。マスコミなどの報道に加え、サンエイでは寄贈報告ポスターを制作して店頭掲示しているが、そうした周知策も遊技客からの寄付が増える要因になっていると思われる。

昨年、サンエイは第50回長野県児童福祉施設大会において「夢チャリティー」の実施が高く評価され、長野県知事賞を受賞した。この活動を通じて、児童福祉施設への理解とともに、未来を担う子どもたちに笑顔届けられるよう、今後も継続していくという。